



35 (産後) サポネット in 荒川

地域を信頼して温かい子育てを

35 (産後) サポネット in 荒川は、東京都立大学荒川キャンパスの学生・教員と、地域住民と一緒に立ち上げ、荒川区とも連携して活動するボランティア団体です。生後6ヶ月までのお子さんがある家庭を訪問し育児のサポートをする「訪問ボランティア派遣」や、子育て交流サロン「みんなの実家@まちや」を運営し、産後の子育てを応援しています。今回は、代表の藤田房江さん、副代表の富山真美子さんにお話を伺いました。

Q: 35サポネット in 荒川が立ち上がった経緯を教えてください。

藤田: 15年以上前、東京都立大学(当時は首都大学東京)の恵美須名誉教授が、出産し地域に戻ったお母さんたちを手助けする仕組みについて研究を行いました。産後の不安を抱えたお母さんに心を寄せつつ、地域の力が必要と感じた先生は、当時認証保育所で働いていた私にお声かけくださりました。私が働いていた認証保育所では、生後2か月くらいから子どもを預かっていて、子育てが辛い、虐待のニュースが他人事に思えない、そんなお母さんもいて、私も保育園につながるまでのエアポケットのような期間を何とかしたいと考えていました。先生と気持ちが一致し、様々なお手伝いを通して、3年間の研究に協力しましたが、このまま終わらせてしまってはもったいないと、平成18年、当初から手伝ってくれたボランティアさんと一緒に「35(産後)サポネット in 荒川」を立ち上げました。お母さんたちを見ていて、そういった支援が継続して必要だと感じたからです。

Q: 35サポネットの現在の活動内容はどのようなものですか?

富山: 主に、訪問サポートと交流サロンです。訪問サポートは、赤ちゃんの見守りやお母さんの相談相手、ちょっとした家事や上の子の遊び相手などを、地域のボランティアさんがしてくれます。交流サロンは、赤ちゃんが遊んだり、ママたちの情報交換の場である「実家倶楽部」や、「ちょこっと一時預かり」「育児相談」「発達相談」なんかもやっています。「発達相談」は理学療法士さんが来てくれて、寝返りやハイハイのことなど、お母さんが心配に思っていることなど相談ののってくれます。



取材時に、遊びにきていた双子の赤ちゃん



インタビュー

35 (産後) サポネット in 荒川

代表: 藤田房江さん(写真右) / 副代表: 富山真美子さん(写真左)

Q: 取り組みの中でやりがいを感じる時は? また、苦労したことは?

富山: 赤ちゃんが笑顔になって、ママが笑顔になってくれることです。緊急事態で駆けつけることもあり、ほんとに助かった、と言ってもらえることが嬉しいですね。

藤田: 緊急事態にも臨機応変に対応してます。困ったときの連絡先が私たちになっているので、ただでさえ産後不安定な時期に、誰かに言えばちょっと落ち着くというときの窓口になってあげたらいいなと思ってます。苦労したことは忘れませんでした。でも、毎日新規のお問い合わせが来るので、ボランティアさんが足りなくなるのが心配。今は、フル回転です。急な依頼もあるのでその時はボランティアさんに一斉にメールで流します。そうすると「出来ます」と何人もの方が手を挙げてくれるので、とても心強いし嬉しいです。

富山: ボランティアさんに支えられているなと感じます。

Q: 社協だよりを読んで下さっている方、子育て中の方に向けて一言お願いします。

藤田: 子育てをあんまり頑張らないで。ヘルプはどんどん出して。地域の方、ボランティアの方達は何か手助けしたいと思ってます。そんな地域の人達を信頼して、ちょっと困ったら声をかけてください。荒川区の人達はよい意味でのお節介(節度のある介入)の気持ちを持っていると思うので、地域を信頼して、温かい子育てをしていきましょう。沢山の人達に覚えてもらって、沢山の人達に「大きくなったね」って言ってもらえるように成長してほしいです。ひとりではがんばりますなんて言わないで、みんなで育ち合っていきましょう。子どもがどんどんつないでくれますから。

35 (産後) サポネット in 荒川

荒川区町屋5-5-5 代表: 藤田房江 TEL&FAX03-3809-4035
E-mail: saponet35@kjb.biglobe.ne.jp
URL: <http://www.35saponet.com>